

# プロサッカーチームがもたらす地域活性化の定量的便益評価

岐阜大学大学院 学生会員 ○大石 希  
 岐阜大学 正会員 高木 朗義  
 岐阜大学 非会員 横山 大輔

## 1. はじめに

プロサッカーチームは試合以外にも地域イベントに参加するなど様々な活動をしている。しかし、それらの活動による効果を定量評価した事例は少ない。一方、チームの経営には厳しい現状があり、地域におけるチームの存在意義が問われている。

本研究では、プロサッカーチームがもたらす市場価値のみならず、非市場価値を評価し、プロサッカーチームを評価する手法を構築する。具体的には、プロサッカーチームの波及プロセスを作成することで地域活性化効果を把握し、既存研究やチームスタッフへの聞き取り調査から地域活性化効果を定性的に検証する。アンケート調査やクラブ・Jリーグの既存データを用いて地域活性化効果を定量評価する。そして、便益帰着構成表を作成することでプロサッカーチームの活動が地域活性化に繋がっているかを評価する。

## 2. チーム活動による効果の波及プロセス

### (1) プロサッカーチーム活動

本研究では、チームの活動をホームゲームの開催、下部組織の活動、社会貢献活動の3つに着目し、地域活性化効果を整理する。

#### (a) ホームゲームの開催

試合開催は、観戦者による消費活動、メディア活動といった地域活性化効果が生じる。観戦者は観戦や財・サービスを消費することによりクラブ増収、

小売業・製造業・卸売業の増収につながり、地域経済が活発化する。試合がメディアに取り上げられることにより地域住民からプロサッカーチームへの関心が集まる。そして、プロサッカーチームの話題を通じてコミュニティが形成し、地域への愛着度が向上する。

### (b) 下部組織活動

下部組織活動では、高校生・中学生においてはサッカーの技術を提供し、選手育成をするだけでなく、学業においても指導を徹底し、選手の社会化向上を促している。小学生以下の子供達にはサッカースクールを定期的で開催し、サッカーをすることの楽しさを伝えることで、競技人口の増加、運動機会の増大に貢献できる。

### (c) 社会貢献活動

プロサッカーチームは地域の一員として生活における楽しみの創出や健康増進という役割を担っている。そのために、プロサッカーチームは社会貢献活動を行っている。例えば、FC岐阜<sup>1)</sup>では、県内各地でスポーツ教室を開催することで、スポーツ振興を実施している。また、ストレッチ教室の開催などの介護予防活動、植樹活動を通じての環境活動を実施している。他にも、地域イベントに選手が参加し、地域住民と交流を行っている。これらの活動は住民に運動機会・環境への意識を増大させ、選手に社会性向上を促している。

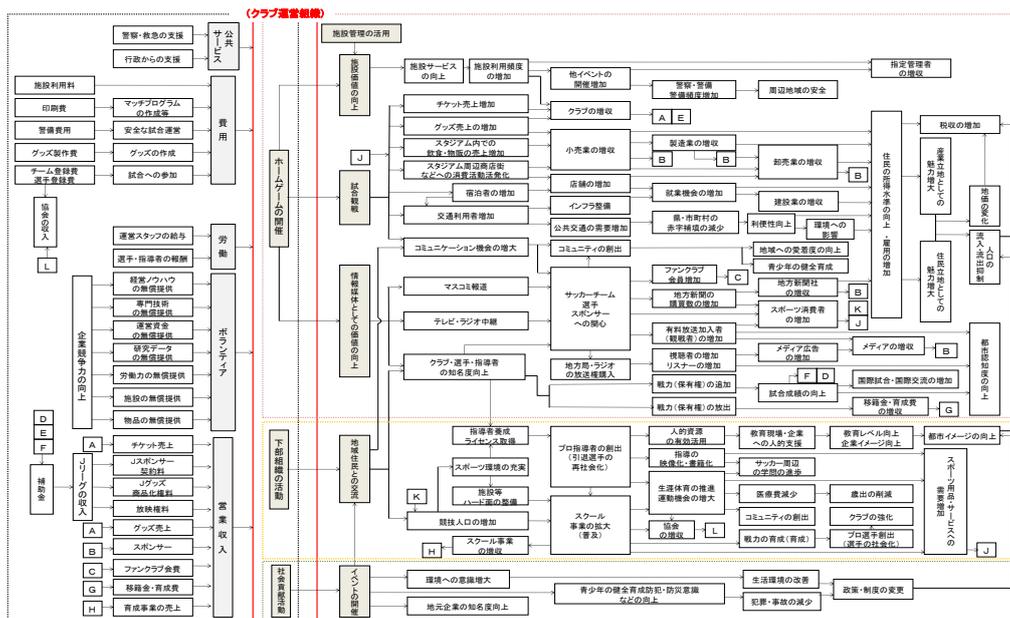


図-1 プロサッカーチームの活動による地域活性化効果の波及プロセス

## (2) 波及プロセスの作成

本研究では(1)や既存研究を踏まえて先行研究<sup>2)</sup>で示した効果の発生から帰着に至るプロセスを修正し、図-1に示した。そして、FC岐阜のスタッフに対する聞き取りから図-1のプロセスを検証した。その結果、チームの活動による地域活性化効果は経済面だけでなく、コミュニティの創出や運動機会の創出など心身面、生活環境面など幅広い分野で発生・波及している。

## 3. FC岐阜の地域貢献評価

アンケート調査に基づき、地域住民にもたらされる地域活性化効果を定量評価する。地域住民にもたらされる便益を把握するために、岐阜県在住の住民(1,000人)を対象にインターネットを用いたアンケート調査を実施した。

### (1) 地域貢献に対する評価

FC岐阜の地域貢献に対する回答分布を図-2に示す。図-2より、FC岐阜は岐阜県の知名度向上、岐阜県の愛着度向上、環境美化向上に役立っていると地域住民は考えており、FC岐阜は岐阜県を代表するプロスポーツチームとして地域住民に認識されている。そして、FC岐阜の活動は都市イメージの向上に貢献している。

FC岐阜の地域貢献に対する支払意思額の評価結果を図-3に示す。図-3より、1,000円/年という回答者が最も多かった。1人当たりの平均支払意思額は1,960円/年となった。このことから、地域住民はFC岐阜の地域貢献を支える意思がある。

### (2) 便益帰着構成表を用いた評価結果の整理

便益帰着構成表<sup>3)</sup>は事業の実施によって各関係主体にどの程度の便益を享受する、または費用を負担するのかを表に示したものである。本研究では図-1と(1)の結果に基づき便益を定量化し、先行研究<sup>4)</sup>で定量化した便益と踏まえて、便益帰着構成表を作成した(表-1)。その結果、普及や地域魅力、地域環境などの非市場価値が大きいことがわかる。このことから、チーム運営が厳しい状況にあるものの、スポーツという公共サービスを供給することに対する便益は大きい。また、社会貢献活動に対する便益も大きい。

## 4. おわりに

本研究ではプロサッカーチームの活動によってもたらされる地域活性化効果の波及プロセスを考えた。チームの活動は経済面だけでなく、心身面、生活環境面においても地域活性化効果をもたらしており、地域におけるプロサッカーチームの存在は幅広い分野であることを示した。

アンケート調査結果からFC岐阜の便益帰着構成表を作成した。普及活動や地域魅力などの非市場価値が地域住民にとって大きいことが示され、FC岐阜の活動は地域活力に繋がっていることを示した。

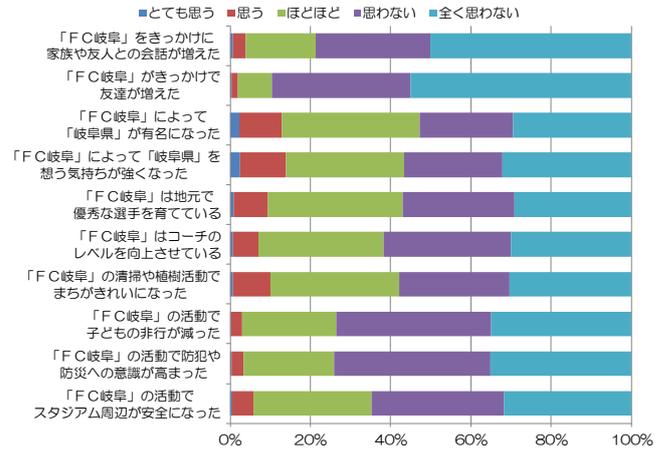


図-2 地域貢献に対する項目別評価

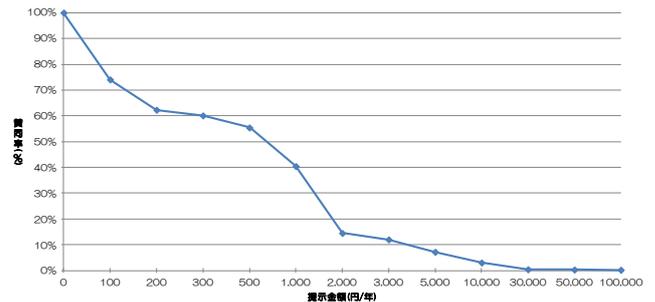


図-3 地域貢献に対する支払意思額の累積分布曲線

表-1 FC岐阜における便益帰着構成表の一部

(単位:百万円)	クラブ		観戦者		住民	合計
	組織	×	直接	間接		
運営支援	×				15	15
営業	-505					-505
観戦	77	60				137
飲食・物販		19				19
スポンサー	188					188
グッズ	×	32				32
会話		19			551	570
中継	×		48			48
一般消費	×	39				39
普及	×				1015	1015
育成					727	727
スポーツ振興					121	121
地域魅力					376	376
地域環境					368	368
治安					642	642
合計	-240	169	48		3815	3792

×: 評価を行わなかった便益  
 先行研究<sup>4)</sup>から評価された便益  
 今回のアンケート調査から評価された便益  
 Jリーグ<sup>5)</sup>のデータから評価された便益

今後は岐阜県内の地域住民、FC岐阜の支援企業に対してアンケート調査を行い、企業、行政が受ける便益を定量化する。そして、FC岐阜の便益帰着構成表を構築することでFC岐阜を評価する。

### 参考文献

- FC岐阜: FC岐阜オフィシャルサイト, <http://www.fc-gifu.com/>
- 大石希: 便益帰着構成表を用いたプロサッカーチームによる地域活性化の社会経済評価, 土木計画学研究・講演集 vol.42, 2010.
- 高木朗義: 便益帰着構成表, 公共政策のための政策評価手法, 伊多波良雄, 中央経済社, pp.88-102, 2009.
- 大石希, 浅岡朝泰, 高木朗義, 北浦康嗣: プロサッカーチームによる地域活性化の便益評価~FC岐阜・大分トリニータを対象として~, 土木学会論文集 D3(土木計画学)vol.67 No.5, 2011(掲載決定).
- Jリーグ: Jリーグ公式サイト, <http://www.j-league.or.jp/>